

2024

12.4 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_uKc0c-W6RmSnJazQVj1B-A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

バン格拉デシュにおける ポータブルヘルスクリニックサービスのための 道具や容器のデザイン試作



Key Words

遠隔予防医療

母子の健康

ヘルスケアデザイン

プロダクトデザイン

秋田 直繁 准教授

芸術工学研究院 人間生活デザイン部門

兵庫県出身。2001年に国立明石工業高等専門学校機械工学科を卒業し、同年4月に九州芸術工科大学に編入学。2006年に九州大学大学院芸術工学府を修了、2006年コクヨファニチャー株式会社（現：コクヨ株式会社）においてオフィスや公共空間用家具の商品企画・開発に従事。2013年に九州大学大学院芸術工学研究院に助教として着任。2018年に九州大学において論文により学位（博士（芸術工学））を取得しました。2021年6月より同大学の准教授として活動しています。

専門分野は、デザインエンジニアリング、インクルーシブデザイン、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、チャールズ・サンダース・パースの記号論です。

現在は、「予防歯科の動機付けのための口腔セルフケア支援ツールのデザイン研究」や「食に関する新規事業案の具現化と事業化プロセスの研究」「ファスニング新商品のデザインを通じた開発手法の研究」など企業との共同研究や新規事業開発においてデザインの実践的な研究を実施しています。そして、これまで研究を続けてきたチャールズ・サンダース・パースの記号論や推論（演繹・帰納・アブダクション）、ジェームズ・ギブソンの生態心理学やアフォーダンス理論、システムミックデザインやインクルーシブデザインの知見を適用しながら、デザイン実践で得られたデザインのノウハウなどの暗黙知を研究を通して理論化し、独自のデザイン学の体系を築くことを目指しています。

Universal Design Award 2012（ドイツのユニバーサルデザイン団体（Universal Design GmbH）とiFデザイン賞主催団体（iF International Forum Design GmbH）が共同主宰する国際的な賞）、2014年グッドデザイン賞（研究活動、研究手法）、2014年第8回キッズデザイン賞、2017年日本感性工学会事例研究賞などの受賞歴があります。

ポータブルヘルスクリニックとは、九州大学のシステム情報科学研究院のアハメッド・アシル先生や医学研究院の中島直樹先生やデータ駆動イノベーション推進本部のラフィクル・イスラム先生らによって構成される研究チームとバングラデシュ・グラミンググループが共同開発した遠隔予防医療・健診サービスを提供するシステムです。本日の話題は、そのサービスで使われる各種測定装置や道具を運搬するための容器の試作・検討に関する内容と、バングラデシュにおける訪問型妊婦健診のためのツールのデザイン試作についてご紹介します。

2024

12.11 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_On4k_ASyQQiVi82CbhV27Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS

骨格筋の分化・再生の制御因子としての 雌性ホルモンエストロゲン



Key Words

エストロゲン

筋分化

筋再生

サルコペニア

保坂 善真 教授

九州大学 農学研究院 資源生物科学部門

【出身地】秋田県秋田市です。

【略歴】北海道大学獣医学部を卒業しています。獣医師の資格を有しています。大学卒業後に公務員として勤務したのち、2001年4月に北海道の酪農学園大学獣医学部に助手として着任しました。大学教員として勤務しながら2005年に博士(獣医学)を北海道大学で取得し、翌年から1年間シンガポールの国立分子細胞生物学研究所に留学しました。その後、2008年に鳥取大学農学部獣医学科に異動し、2022年10月から九州大学に在籍しています。この間一貫して、動物の運動器(骨や筋肉)の形作りにおける糖鎖やホルモンの役割について研究を重ねてきました。

【研究・教育活動】動物の解剖学や組織学などの「かたち」を主な研究・教育の対象としています。これまでに、全国の獣医学生が使用する教科書「獣医組織学」や「獣医発生学」の執筆、「カラーアトラス獣医解剖学」の翻訳を手がけてきました。最近では、産業動物獣医師向けの雑誌「臨床獣医」の連載記事の監修も担当しています。

獣医学から畜産学に研究フィールドを移しましたので、家畜の健康に加え、生産性の向上を目指す研究を進めたいと考え、現在これに関する研究を進めています。

雌性ホルモンであるエストロゲンは、生殖機能の維持や骨代謝にとって重要であることはよく知られていますが、近年、とりわけ雌において骨格筋の分化・再生のプロセスで重要な役割を担っていることが分かってきました。本セミナーでは、これまでに私たちが明らかにしてきた、骨格筋組織の発達や再生過程でのエストロゲンの具体的な機能や役割について、ご紹介させていただきます。

得られた知見は、サルコペニアの予防への貢献が期待されることはもちろん、将来的には加齢に伴う筋力低下、閉経後の女性における筋量減少、そして運動不足による筋萎縮などへの治療応用も視野に入れることができるかもしれません。

2024

12.18 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_6douSokQRNW-VTcHqgl_kA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

薬剤耐性菌の動向と対策



Key Words

薬剤耐性菌

抗生物質

感染症

サーベイランス

ワンヘルス

下野 信行 教授

九州大学病院

九州大学医学部を 1986 年に卒業し、研修医、研究生、市中病院の勤務を経て、1998 年から 3 年間カリフォルニア大学バークレー校に留学し、結核菌の病原因子について研究しました。帰国後 2002 年からは、九州大学病院で感染症の診療、つづいて感染制御に従事してきています。2013 年からは九州大学病院グローバル感染症センター長、2021 年からは総合診療科教授を併任しています。

感染制御では、薬剤耐性菌の検出状況の把握や感染対策を中心に活動しています。いずれも個々の病院だけでなく、地域全体をあげての活動が大事で、福岡 ICT 交流会や地域でのサーベイランスなどを行ってきています。

1950 年以降、抗生物質の開発により、肺炎をはじめとしたさまざまな感染症の治療が容易になり、その恩恵は計り知れません。一方で、薬剤耐性菌の増加は世界的な問題となっており、抗生物質で治療可能だった感染症の治療が困難になるリスクが高まっています。2011 年には WHO も「No action today, No cure tomorrow」として警鐘を鳴らしました。

薬剤耐性菌を抑制するための抗菌薬の適正使用などの取り組みは世界中で行われており、日本でも「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」が発表されています。国内における薬剤耐性菌のサーベイランスも充実してきましたが、国内でも地域差が認められ、とくに西日本では薬剤耐性が高い傾向にあります。医療分野では、地域の医療機関同士の連携を強化しながら、薬剤耐性菌対策に取り組んでいます。しかし、医療機関だけでなく、動物・環境分野や一般市民に至るまで、全体の意識向上を含めた対策が必要です。